

中小生産ライン IoTで測定

旭鉄工

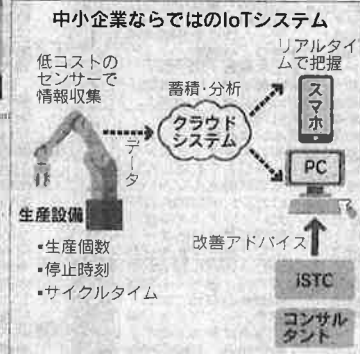
トヨタ自動車グループを主な取引先とする部品メーカーの旭鉄工(愛知県豊橋市)は、中小企業向けの生産ライン測定システムを本格的に売り出す。従来のモノがネットにつながる「IoT」をいかに、生産性や品質の向上に役立ててもらおう。初期費用を10万円と大手の1割以下に抑え、2020年度をめどに内外2000社の導入を目指す。



スマホなどで生産ラインの稼働を分析する(愛知県豊橋市にある旭鉄工の工場)

初期費用10万円 業務効率化促す

システムは旭鉄工子会(の稼働状況と生産の所要)のISTC(愛知県豊橋市)が提供する。設備稼働できるのが特徴だ。不集中的に改善すること



トヨタ自動車出身で旭鉄工の木村哲也社長にものづくりの視点から中小企業の課題を聞いた。

「中小企業は古い設備が多く、稼働率を把握するのが難しい。ストップウォッチで全ての生産ラ

旭鉄工 木村社長に聞く

「初期導入の価格は多時間かかる。IoTシステムの開発するきっかけはメーカーの増産要請10万円にした。当社の採り手が増やさず、いかに生産性と仕事の付加価値を上げるかが大事だ」

人手増やさず 生産性向上を

旭鉄工の木村哲也社長はトヨタの出身。現場で徹底的にムダ、ムラ、ムリを省く「トヨタ生産方式」を中小企業にも広げたいと、今回のシステムを正しく把握して、

「初期費用は10万円、月間利用料(5万円)は3万9800円から、製造から年月の経過した機械にも対応可能という。データはクラウド上に集め、現場でスマートフォンなどで分析できる。大手のシステムを導入する場合、一般的に数百万円から数千円まで提供。経営コンサル事務所や各地の商工会議所などと連携し、全国で販売先を増やす。今年5月にはタイ工業省と覚書を締結し、タイで7社が計20の生産ラインで試験

を試験を含めて約100社に導入してきた。旭鉄工でも西尾工場(愛知県西尾市)で生産性が高まり平日の残業がゼロになったという。

システムを導入した後、先5日分のデータを分析し、生産ラインの診断レポートも月額9800円で提供。経営コンサル事務所や各地の商工会議所などと連携し、全国で販売先を増やす。今年5月にはタイ工業省と覚書を締結し、タイで7社が計20の生産ラインで試験

している。

18年1月には人工知能(AI)の研究者を採用した。自動で生産ラインの異常を見つけたら、予問したりするシステムの開発にも乗り出す。

好調な世界経済を背景に、自動車や機械を中心に取引先から増産要請を受ける中小企業は多い。一方で人手や設備、資金などが不足がちなところも多く、生産性の底上げが急務になっている。(工藤正晃)